

社会労働資料活用の可能性と未来

特集にあたって

2015年11月26日、法政大学多摩キャンパス100周年記念館国際会議場で、シンポジウム「社会労働資料活用の可能性と未来」が、開催された。参加者は約80名であった。このシンポは、社会・労働関係資料センター連絡協議会（労働資料協）第30回総会を記念して、労働資料協と大原社会問題研究所の共催で開催された。労働資料協は、社会・労働関係資料の収集・整理・保存・利用に関与する全国の諸機関の緩やかなネットワークで1986年に発足した。労働資料協の目的は、社会・労働関係資料の保全を図り、公開利用の促進に寄与することであり、毎年機関会員および個人会員の交流を図るために総会・研修会を実施してきた。労働資料協の歴史、活動内容などについては、本特集の谷合佳代子・労働資料協事務局長の論稿を参照されたい。



鈴木 玲

「社会労働資料活用の可能性と未来」シンポでは、谷合事務局長の労働資料協の30年の活動についての報告に続き、熊沢誠・甲南大学名誉教授による基調講演、それを受けてのパネルディスカッションが行われた。講演者やパネルディスカッション登壇者は、労働資料を労働運動関係資料に加え、労働統計、労働事件の裁判資料、労働調査、労働問題文献、労働者の生活の記録、オーラル・ヒストリー、労働文化資料などを含む広範な資料群ととらえ、その収集、利用、保存などについての課題を活発に議論した。

シンポジウム開催とあわせ、会議場入り口前のスペースで大原社研所蔵ポスターの展示会も行われた。本シンポや展示会の準備と実施には、多くの方にお世話になった。とくに、エル・ライブラリー（大阪産業労働資料館）と大原社会問題研究所の研究員、職員の方にはチラシ作成、配布、広報、会場準備等でお世話になった。改めてお礼を申し上げたい。

（鈴木 玲 法政大学大原社会問題研究所教授、労働資料協代表幹事）

労働資料協 第30回総会記念シンポジウム

社会労働資料活用の可能性と未来

共催：法政大学大原社会問題研究所，社会・労働関係資料センター連絡協議会（労働資料協）

日時：2015年11月26日（木）15:00～17:30

会場：法政大学多摩キャンパス・100周年記念館国際会議場

プログラム 司会：藤原千沙（法政大学大原社会問題研究所准教授）

「労働資料協30年を振り返る」

谷合佳代子（労働資料協事務局長／エル・ライブラリー（大阪産業労働資料館）館長）

【基調講演】「私の労働研究とアーカイブズ」熊沢 誠（甲南大学名誉教授）

【パネル・ディスカッション】社会労働資料活用の可能性と未来

熊沢 誠（甲南大学名誉教授）／梅崎 修（法政大学キャリアデザイン学部教授）／平野 泉（立教大学共生社会研究センター勤務，アーキビスト）／榎 一江（法政大学大原社会問題研究所准教授）／篠田 徹（早稲田大学社会科学総合学院教授）／コーディネーター：鈴木 玲（法政大学大原社会問題研究所副所長・労働資料協代表幹事）／（注）肩書は2015年11月現在



会場では，大原社会問題研究所が所蔵する，19世紀から20世紀前半の社会・労働関係のポスターが展示された。